

空襲

昭和 20 年 3 月 19 日、姫路海軍航空隊基地に空襲があり、米海軍の空母艦上戦闘機による銃爆撃がありました。当時坂本に住んでいた古家實三さんの日記には、「鶉野にも 26 機来襲、黒煙奔騰」と書かれていました。

基地への本格的な攻撃は、米軍資料によると、7 月 24 日と 30 日でした。24 日午前 11 時に F4U (コルセア) 10 機、11 時 59 分に 8 機が攻撃したと記されています。



今もそのままに残る鶉野飛行場跡地の滑走路

この日の海軍第 3112 設営隊戦時日誌によると、「11 時 40 分敵艦上機本隊並二飛行隊来襲爆撃銃撃」。飯盛山トンネル入口付近で、「三発 50kg 爆弾投下され奈良空練習生 1 名戦死人夫 3 名重軽傷」と、書かれていました。

30 日の攻撃は、午前 6 時 50 分に 4 機の F6F (ヘルキャット)、9 時 40 分に 9 機の TBM (アベンジャー)、9 時 45 分に 7 機の F6F、午後 2 時に 4 機の F6F の 4 回と、米軍資料にあります。

古家さんもその日の日記に、「午前 3 回、午後 1 回、鶉野へ敵機来襲」。翌日には、「川西 (航空機) の社宅で母子 3 人即死、外工員、海軍兵数名の死傷者」「王子の民家 5 戸が機銃掃射により屋根を破壊」とその被害を書かれていました。

戦後の鶉野飛行場

昭和 20 年 8 月 15 日終戦。基地において米軍の進駐前に書類などが焼却処分されたと言います。10 月 23 日、アメリカ軍が元姫路海軍航空隊基地に進駐し、翌年 5 月まで兵器や弾薬の処理にあたりました。

基地跡は復員・引揚者などの受入先、あるいは食糧増産のため緊急開拓事業が行われました。基地跡は固くしまる整地土のため開墾が困難でありましたが、入植者や地元の人々の努力によって、次第に農地に姿をかえてきました。

しかし、滑走路を含む一部はアメリカ軍に接收されたり、昭和 27 年 4 月には警察予備隊 (自衛隊の前身) が旧航空隊兵舎に進駐したりしました。昭和 32 年 9 月には、接收も解除され、滑走路は大蔵省の管轄となりました。何度か播磨空港建設用地の話も出たようですが、実現することはありませんでした。

昭和 39 年頃、県立兵庫農科大学の神戸大学移管に伴い、兵舎施設跡 40 ヘクタールに附属農場 (現神戸大学食資源教育研究センター) が建設されることになり、昭和 41 年に工事が着手されました。当時、敷地内には建物基礎、防空壕などが散在していました。これらの頑強なコンクリート構造物は、工事予算の都合上完全に撤去できず、一部はそのまま残ることになり、現在に至っています。



地下指揮所跡防空壕



防空壕の内部